

入館
無料

モダン 中之島

大阪大学総合学術博物館 第16回特別展

“大大阪”時代の文化
芸術発信センター

コレクション

絵画、写真、ポスター、建築、橋梁…
きらめく中之島のヴィジュアルを集めました

2022

4/28 (木) ▶ 7/30 (土)

大阪大学総合学術博物館
待兼山修学館

10:30~16:30

入館は16:00まで

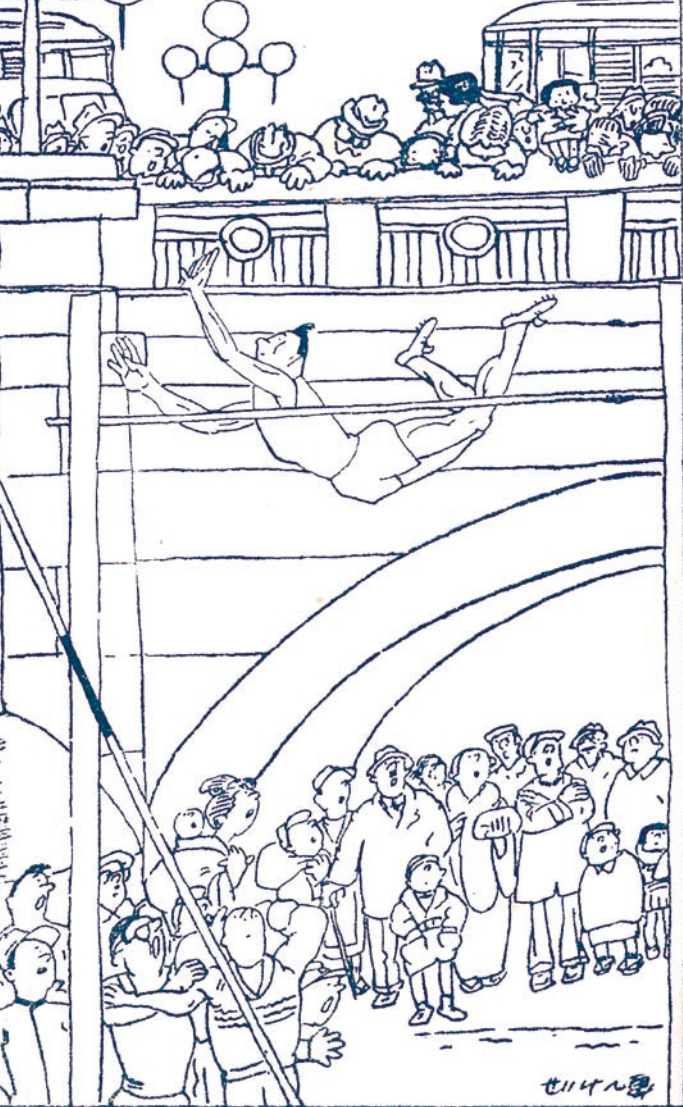
日・祝日休館

主催 大阪大学総合学術博物館
共催 大阪大学大学院人文学研究科
大阪大学大学院工学研究科
協力 大阪市中央公会堂、大阪歴史博物館
大阪くらしの今昔館、株式会社竹中工務店
株式会社ロイヤルホテル
大阪大学医学部医学史料展示室
後援 関西経済同友会

[右] 藤井厚二「大阪朝日新聞社建築図面 時計塔・文字盤」1910年代 株式会社竹中工務店蔵
[左] 「OSAKA VIEWS 大阪風景を綴めて」写真葉書袋絵より難波橋・ライオン像
大正寫眞工藝所 大正～昭和初期 個人蔵

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催日程・休館日・
開館時間・イベントが変更になる場合があります。ご来館前
に当館ホームページで最新情報をご確認ください。



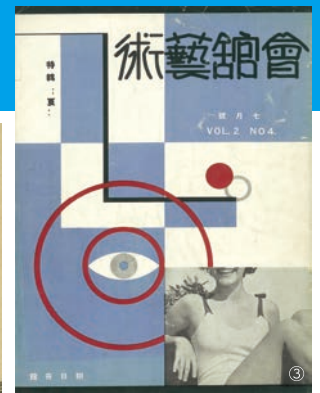


大阪・中之島は、江戸時代には蔵屋敷が並び、近代には大阪市庁舎をはじめ、新聞社、図書館、ホール、ホテルが集積した**シビック・センター（Civic Center）**として発展しました。

戦後も、フェスティバルホールや具体美術協会の「グタイピナコテカ」の開館など、大阪の文化芸術の中心地であり、いまでも重要文化財に指定されている大阪市中心公会堂や大江橋・淀屋橋を中心に、地域全体を美術館に見立てた“エコ・ミュージアム”として機能しています。

本年の大阪中之島美術館の開館は、この地域をさらに新しい文化ゾーンへと変貌させ、**世界的にもユニークな“美術館島”**としての性格を強めることになりましたが、大阪大学も、大阪大学中之島センターを改修して美学、美術史、演劇学、音楽学、文芸学など芸術系の拠点として「大阪大学中之島アートセンター」の2023年開設の準備を進めています。

この動きを踏まえて本展では、大正14年（1925）東京市を抜いて日本最大、世界第六位となった“大大阪”時代を中心に中之島が文化芸術に果たした役割を、市庁舎のステンドグラスほか、パンフレットや絵画、ポスター、写真、地図、刊行物など、日常生活や社会に氾濫した“**イメージリイ**”（イメージ図像）を中心に再検証します。



- ①藤原せいけん「今の中之島公園」『大阪叢書 北濱界限 中の島界限』1928年 個人蔵
- ②初代長谷川貞信「浪花百景」より「たこの松」大阪大学総合学術博物館蔵
- ③雑誌『會館藝術』Vol.2, No.4 朝日会館発行 1933年 個人蔵
- ④武田五一「大阪市公会堂新築設計図 透視図」紙本・インク・着色 1912年 大阪市蔵
- ⑤安井曾太郎「薔薇」油彩・カンヴァス 1934年 株式会社ロイヤルホテル蔵

関連イベント



シンポジウム

歴史の可能性を可視化する

- 再現される大阪市中央公会堂コンペ案

日時 6月25日（土）13:00～16:30

会場 大阪市中央公会堂 3階 中集会室

そのほかミュージアムレクチャーも開催予定

※イベントの詳細・申込方法は当館ホームページをご覧ください



展示内容紹介

「大阪市パノラマ地図」印刷 1923年 個人蔵

「大阪市公会堂新築設計図 透視図」原画 紙本・インク 1912年 大阪市蔵

森琴石筆「難波橋渡り初め式図（下絵）」紙本・墨画 1915年 個人蔵

「旧大阪市庁舎ステンドグラス（扇形）」1921年 大阪くらしの今昔館蔵

「大阪朝日新聞社・朝日会館・朝日ビルディング模型」株式会社竹中工務店蔵

アクセスのご案内

○ 阪急電鉄宝塚線・石橋阪大前駅より徒歩約10分

○ 大阪モノレール・柴原阪大前駅より徒歩約20分

* 公共交通機関をご利用ください

○ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、掲載内容に変更が生じる場合がございます。ホームページで最新情報をご確認ください。

○ 入館の際、マスク着用・検温・消毒をお願いしております。

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町1-20

TEL: 06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>

